

2023年度滋賀森林インストラクター会県外研修報告

1. 日時 2023年6月 24(土)・25(日)
大津駅前逢坂市民センター前バス乗降場集合 7:50
2. 研修場所 石川県・岐阜県・白山白川郷ホワイトロード&天生県立自然公園
3. 内容 1日目 白山白川郷ホワイトロード
2日目 天生県立自然公園(天生湿原、カツラ門)
4. 日程 24日 バス乗降場 7:50 発—大津 IC—賤ヶ岳 SA(休憩・2人乗車)—尼御前 SA(休憩・昼食)—小松 IC—(白山白川郷ホワイトロード)—ふくべの大滝 13:20~14:00—梅の木台 14:15~14:40—白川郷展望台 14:50~15:35—白川郷 IC—飛騨清見 IC—高山 IC—宿 17:05
25日 宿 8:00 発—(飛騨市内の弁当屋やすいで弁当調達)—天生峠・天生県立自然公園 9:20~15:00—白川郷 IC—ひるがの高原 SA(休憩)—養老 SA(休憩)—伊吹 PA(2人降車)—大津 IC—大津駅 19:30
5. 交通機関 ムラタ観光マイクロバス
6. 参加者 高橋優、平田明、平田輝子、堀彩音、山口朋子、山口武彦、橋木啓子、関澤友規子、森上記子、小西民人、小西みどり、高田七重、関谷啓子、山本綾美、富田桜 (以下2名は途中乗車) 高森陽子、高森遊
男4名 女13名 計17名(5部屋確保)
7. 宿泊地 国民宿舎 霜出荘 岐阜県飛騨市神岡町伏方 281 標高 715m
☎ 0578-82-1654 1泊2食 大人 9,500円 子ども 7,800円
8. 持ち物 野外観察に適した服装、着替え、軽登山靴かズック靴、サブザック、水筒、スマホ・携帯(電源)、雨具(防寒着を兼ねる)、タオル、虫除け、救急薬、帽子、ストック、軍手、メモ帳、筆記具、図鑑、カメラ(電池も)、双眼鏡、ルーペ、現金(宿泊代、2日目の昼食代 700円、天生公園環境整備協力金 500円、その他飲食・お土産代等)。

※ 歯磨きセットやドライヤー、浴衣などのアメニティは宿に揃っている。

1日目研修 白山白川郷ホワイトロード内

① ふくべの大滝(落差 86m) 標高 910m 付近

最初の研修地、ふくべの大滝付近で確認できた植物は、樹木として、シモツケ、ドクウツギ、イブキジャコウソウ、シナノキ、クマシデ、アズキナシ、ヤマボウシ、ミズナラ。

草本は、アサギリソウ、ミヤマトウキ、オオバギボウシ、イワオウギ、ミヤマオトコヨモギ、イワベンケイ、キリンソウ、コカラマツ、ヤグルマソウ、クサボタン、ヨツバヒヨドリなど。

このうち、日本三大有毒植物の1つであるドクウツギ(他の2つはトリカブトとドクゼリ)は体全体に神経毒であるコリアミルチン、コリアリン、ツチンを含んでいて、誤食すると死に至る。特に果実は毒性が強く、それを包んでいる偽果(写真の赤い粒)は甘くて、戦前はこれを食べて死ぬ子が多かったそう。方言名「イチロベゴロシ」はこれに由来する。

この種を含むドクウツギ科ドクウツギ属は地中海、ヒマラヤ、中国、日本、台湾、フィリピン、パプアニューギニア、ニュージーランド、ペルー、チリなどに見られる世界的な隔離分布の例で、植物学者の前川文夫氏により大陸が1つだったころの地球の赤道地域に分布していたものが大陸移動によってばらばらに分割されて現在の分布を示すようになったという古赤道

説が提唱される起因となった。今ではそれぞれの地域のドクウツギ属の種は比較的新しい時代に分離したものであるということが分かって、古赤道説は否定されたが、隔離分布をなぜしているのかについては未だ解明できていない。



ふくべの大滝



ドクウツギ



イブキジャコウソウ



アサギリソウ



ミヤマトウキ



イワオウギ



キリンソウ



コカラマツ



ヨツバヒヨドリ

さて、ふくべの大滝を出て次の研修地、榎の木台に向けて出発。車窓からはニッコウキスゲなどの花々が見られた。

② 榎の木台 標高 1420m 付近

ここでは白山の姿がドンと見られる筈だったが、残念ながら厚い雲の中。ここで観察できた植物は、樹木ではナナカマド(タカネナナカマドかも?)、ウラジロヨウラク、オオコメツジ、アカモノ。草本はオニアザミ、ハクサンチドリ、ワレモコウ、ササユリ。



ナナカマド(タカネナナカマドかも?)



ウラジロヨウラク



アカモノ



オニアザミ



ハクサンチドリ

ほぼ最高地点の榎の木台を出発し、白川郷展望台に向かった。

③ 白川郷展望台 標高 1160m 付近

駐車場から展望台まで長い階段が続き、そこを登ると、目の前に白川郷の全域がバーンと望めるものと思いきや、写真のようにほんの一部がはるか遠くに。素晴らしく期待を外してくれる展望台だった。設置されたブランコで揺られる人や、木製の広いテラスの上で寝そべる人など、ゆったりとした時間の中に身を置けた。

付近で見られた植物は、樹木ではウダイカンバ、ヤマハンノキ。草本としてはハンゴンソウ、サンカヨウ、ハクサンカメバヒキオコシ、エンレイソウなど。



はるか遠くに見える白川郷の一部



心配そうに見守る平田さん



ウダイカンバ



サンカヨウ



ハクサンカメバビキオコシ

次は、ひだ流葉スキー場近くの宿泊地、国民宿舎霜出荘。予定より早く到着。到着した途端にアクシデント発生。いろいろあったが、後々まで引きずるような大事にならずに済んだことがせめてもの救い。よかった、よかった。食事のあとはそれぞれの時間。流葉の湯に行かれた方や、部屋でダベリングの方や。ちなみに私は、夜の星座観察、早朝の植物観察を楽しんだ。

2日目研修 天生県立自然公園

この日が主目的なので、少し詳細に研修内容を辿っていきたい。

朝8時に霜出荘を出発。予約しておいた弁当を少し遠回りして受け取り、天生峠に着いたのが9時20分(標高1289m)。ここから天生湿原やカツラ門までの研修を開始した。

この後は、7つの地域に分けて出現した植物(動物も少し)を写真中心で紹介する。



① 駐車場のある天生峠周辺

ここで見られた植物は、下の写真以外に主なものはホオノキ、タマガワホトトギス、トリアシショウマなど。



ベニバナイチヤクソウ



アカモノ



イワナシ

② 天生峠～天生湿原手前



ツクバネソウ



アカミノイヌツゲ



コミネカエデ

その他、マルバマンサク、リョウブ、ブナ、タニウツギ、アズキナシ、ミツバオウレン、カニコウモリ、イヌガンソク、ヤマソテツなどが見られた。

③ 天生湿原の周辺(東側登山道・匠堂も含む)

この研修の中心ともいえる地域で、湿原植物を中心とした多くの植物に出会えた。下の写真で紹介するもの以外では、ズダヤクシュ、ギンリョウソウ、ミヤマタムラソウ、ワタスゲ、モウセンゴケ、ウラジロヨウラクなどが見られた。



ゴゼンタチバナ



ミツガシワ



ミタケスゲ



ニッコウキスゲ



ワレモコウ



タテヤマリンドウ



ツマトリソウ



サワラン



マイズルソウ



ミネカエデ



オオバスノキ



アカモノ



ザゼンソウ



ミズバショウ



ヤマドリゼンマイ



タケシマラン



モリアオガエルの卵塊



マルバマンサク



ホロムイソウとミズバショウ



モリアオガエル



オオイトトンボ

④ 天生湿原～カラ谷出合手前

下の写真以外では、ブナの幹と枝の間のくぼみで生育するヤシャビシヤクが確認できた。



ブナの幹に着生するフガクスズムシソウ



ウラジロヨウラク(白花)



コウモリソウ



マルバダケブキ



ヤブデマリ



オニシモツケ



サイハイラン



モミジカラマツ

⑤ カラ谷出合周辺とカツラ門まで

カツラの大木が目印のカラ谷出合に 12 時過ぎに到着。ここで昼食タイム。個人的なことだが、近くの小川に小ぶりのイワナがいて、じっくり観察しながら弁当を食べていると、小さな黒い虫が腕にびっしりと止まってきた。何かなあとぼんやり見ていたら急にチクチク痛くなって驚いた。初めてヌカカという奴を知った。即座に抗ヒスタミン軟膏を塗って事なきを得たが、放っておくと痒みでパンパンにはれるという。齢 73 歳、まだまだ知らぬこと多し。

カラ谷出合からカツラ門まで道のり 500m 標高差 60m の登り。昼食を終えて出発。次の写真以外で確認できた植物は、オオイタヤメイゲツ、ツタウルシ、サンカヨウ、タニギキョウ、ヤマトユキザサ、ミヤマイラクサなど。



ヤマクワガタ



リュウキンカ



リンゴコフキハムシ



カラ谷出合のカツラ



オヒョウ



ヤグルマソウ



ミヤマカラマツ



カニコウモリ



ヒメヘビイチゴ



トチバニンジン



ニワトコ



キヌガサソウ

⑥ カツラ門とミズバショウ群生地まで



カツラ門



トチノキ



コケイラン



フガクスズムシソウ



ズダヤクシュ



ショウキラン



サワフタギ



ノウゴウイチゴ



ミヤマタムラソウ



ヤマトユキザサ



カツラ門で集合写真を撮った後、ミズバショウ群生地に向かったが、途中で分岐を見落とすミスがあり、少し時間のロスもあった。これもお愛敬。分岐から群生地へ向かう途中で、2度目のフガクスズムシソウに遭遇。あんな高いところに生えている双眼鏡で確認しないとわからないようなものをよく見つけたものだ。ありがたいことに富田さんの望遠カメラで2度とも撮影に成功。感謝感謝です。さらに、ショウキランにも出会えた。寄り道は大事です。

⑦ 帰路の天生湿原西側

ここでもいくつかの新参者があった。下の写真にないものとしてミズギボウシを確認した。



ツバメオモト



ミヤマシラスゲ



ヒダキセルアザミ

天生湿原を抜けてからは、予定の午後3時に終着の天生峠に着くように、ただひたすら急がせたように思う。時間的に余裕があると油断していた。今後の反省です。ただ、大津には予定より早くついて、少し気が楽になった。

最後に、参加者の感想の一部を載せます。勝手に短く要約したもので、誤りがあればご容赦を。

- ・ 4年前のリベンジが果たせてよかった。
- ・ 関西から飛び出しての研修は新鮮だった。
- ・ 参加者の年齢層が幅広かったのが価値あると感じた。
- ・ トイレ問題の配慮を。
- ・ 自然との触れ合いに満足した。
- ・ 様々なランの仲間との出会いが印象的。
- ・ 参加者の自然や植物を見る目の輝きが印象的。
- ・ 普段見られないものに出会えて、とても新鮮で充実していた。

最後の最後に一言 報告書が大変遅くなり申し訳ありません。

(文責 小西民人)